

NCNL 図書館だより

No. 17 June 20 2005

世界の看護の動向にコミットし 発信する図書館を目指して

教授 図書委員長
野地有子

世界の看護師が4年毎に一同に会する、ICN (International Council of Nurses: 世界看護師大会) の第23回大会が、この5月に台湾で開催されました。成田から3時間と近く、日本からも多くの参加者がみられました。開会式には4,000人以上が参加し、各国代表が民族衣装で華やかに入場して開幕しましたが、カンボジアなどの看護協会を持たない国は参加できないことが脳裏をかすめました。次いで、厳重な警備のもとに台湾の総統の力のこもった演説がありました。人々の健康だけでなく国家の在りように看護がいかに大きくかかわってきているのか、その重要性を実感させられました。今回の大会テーマは「看護の動向: 知識, 変革, バイタリティー」であり、変化の早い世界にあつて、将来の保健医療の課題をも視野に入れた看護の実践を目に見えるものにしていこうという内容でした。

最も印象深かったのは、2日目の朝に行われたヴァージニア・ヘンダーソン記念講演でのサモア代表のストワーズ先生のお話でした。会場から、「一度もサモアに行ったことのない人がサモアの人々や文化を本当に理解することはできますか?」という質問がありました。その答えは「No」

でした。そのうえで、自分と異なる文化に対する尊敬の念の大切さが語られました。看護職と患者やクライアントも、実は異なった文化を持っているといえます。相手を尊重し尊敬の念で接すること、相手の文化を理解するための努力をすることの大切さが、改めて心に届くメッセージでした。

日本代表の南裕子先生が、世界の代表に就任された記念すべき大会でもありました。これから4年間、日本は世界の看護のリーダーとしての発信地になります。本学の図書館も世界の看護の動向にコミットし発信する図書館を目指して、ともに発展していきたいです。



ICNでの台湾看護協会の展示

(台湾最初の看護学の教科書は日本語でした)



平成17年3月31日に新潟県立看護短期大学図書館は閉館しました。
11年間無事に運営ができたことを感謝いたします。引き続き新潟県立看護
大学図書館をご愛顧賜りますようお願いいたします。

『骨から見た日本人—古病理学が語る歴史—』 鈴木隆雄著 講談社 1998年

助教授 藤田 尚

本書は、古病理学（古人骨に残された疾病を研究する学問）に関する、恐らく本邦初の一般向け図書であろう。内容的には、一部ネアンデルタール人やピテクントロプスなどの海外の事例が紹介されるものの、ほとんどが本邦から出土した古人骨に残された病変を解析し、その歴史的意味を考察している。紹介される疾病は、骨折、ガン、先天性異常、クリブラオルビタリアをはじめとする、各種のストレスマーカー、ハンセン病、結核、梅毒等々、多種多様である。改めて古代の人々が、現代人と同様、各種の疾病に苦しみ、あるいは命を落としていた現実を見せ付けられる思いがする。

中でも圧巻なのは、骨結核を扱った第四章である。著者は、全国から数千体も見つかっている縄文時代人に結核の痕跡がなく、発見数が少ない古墳時代人骨に3例の骨結核が見つかっていることに注目し、本邦においては、結核は縄文時代には存在せず、その後大陸から渡来してきた、渡来系弥生時代人によってもたらされた新種の感染症であったと推定する。そして、この新種の感染症（結核）に何ら免疫力を持たなかった縄文時代人は、大きなダメージを受け、結核に対する免疫力を備えていた渡来系の弥生時代人が、日本で勢力を伸ばすきっかけとなったと推論している。日本

人の形成に、結核というひとつの伝染力が強い感染症が大きな役割を果たしたとする、ダイナミックな仮説である。

評者である私は、著者との交流が深いので、少しばかり著者の経歴を紹介する。著者の鈴木は医師であるが、医学部の学生時代から遺跡の発掘に参加するなど、考古学・人類学に非常に興味があったようだ。学部卒業後、東京大学大学院で埴原和郎教授に師事し、本格的に人類学を学んでいる。医師であることがそうさせたのか、在学中から古病理学に研究の的を絞り、30代には意欲的な論考を次々と発表している。またアメリカのスミソニアン研究所に長期留学し、現在世界の古病理学をリードしている研究者らと交流を深め、毎日の熱いディスカッションを通じて、古病理学の研鑽を深めたと仄聞している。

本書には、古病理学についての基礎的な勉強を積み上げてきた著者の卓越した記載が、そここに見られる。過去の疾病史を知ることは、極めて重要であり、現代の医療にも多くの示唆を与える。医療に携わる方々には、是非ご一読をお勧めしたい一冊である。

※ 図書館請求記号：469.4-Su96
(棚番号5) 3冊所蔵しています

最近思うこと

3年 野上由貴

現在私が図書館を利用するのは、主にPBL学習の際の資料集めと演習の事前学習のために使うことが多い。本当は、もっと文庫本や2階に並んでいる一般図書をゆっくりと読むために図書館のゲートを通りたいものだが、それもままならないのが現状である。1、2年の頃に比べ、3年になってからの方が格段に利用する機会が増えたように思う。レポートや演習の課題については学年全員同じである場合がほとんどなので、どうしても必要分野の図書に多くの人が集中してしまう。PBL学習ではそれを避けるためにできるだけ

コピーしよう、ということになった。事実、3年になってからは図書館に足を運ぶ時間に比例してコピー代も格段に増えた。これからも増えていくに違いない。よく考えてみると、図書館での私の動線は1階に留まっていて、本棚・移動書架⇄閲覧席⇄コピー機の往復である。2階の一般図書まで広がるのはまだまだ先のようなけれども、余裕ができたなら、というよりも、できるだけ好きな本が読めるような時間を作るようにしたいものである。

図書返却のマナーについて

3年 石黒朝日香

図書返却のマナーについて、少しコメントしたいと思います。図書の貸出期間は2週間（学生）ですが、必要な図書を借りようとする時には、長い期間となります。同じ時期に同じ課題をしなければならぬことが多く、誰かが長期間借りていれば、その期間必要な図書を見る事が出来なまま課題をしなくてはならないということがあります。

お互いに図書を借用できるように、必要な分は

コピーする等して直ぐに返却するにすれば、他の人が「図書がないから出来なかった」ということを無くすことができるのではないのでしょうか。

図書館にはそれほど多く同じ図書はありません。特に看護の専門書に関しては多くの人が図書を借用できるように思いやりをもって、出来るだけ早期に返却するようにして、みんなで利用しやすい図書館にしていくことができればと思います。

* 図書館からのコメント *

図書館の蔵書は毎月の図書委員会で選書しています。複本にするかどうかは、利用度、蔵書構成、書架スペースなどを考慮に入れて決定しています。全員が読まなければならない資料であれば複本購入を検討する必要がありますので、教員皆様からのご推薦をぜひお願いいたします。

「みんなで利用しやすい図書館」を考えて利用していただくのはとても大切なことです。貴重なご意見ありがとうございました。

最後に、コピーでの利用は“著作権法遵守”をお忘れなく！

図書整備状況

2002年4月本学開学に伴い、2001年度末から4年間（2004年度末まで）図書整備が実施された。2000年3月31日時点の図書館蔵書数は24,920冊、うち和書22,978冊、洋書1,942冊であった。そして大学開学にあたり、他の看護大学図書館の蔵書数等を参考に、蔵書数約10,000冊の増加、和書と洋書の比率を8:2となるように図書整備が計画された。

2004年度末現在の分類別蔵書数をみると、蔵書数は41,823冊（16,903冊増）、うち洋書は7,022冊（5,080冊増）となり、蔵書に占める洋書の割合は約16.8%となった。

分類別にみると、蔵書割合では医学を含む自然科学が34.8%、ついで看護学24.0%、社会科学18.3%、哲学5.6%、言語4.7%等となっている。

洋書は、各分類に占める洋書の割合をみると当然のことながら言語が41.7%と最も高く、ついで哲学18.7%、自然科学18.1%、社会科学14.8%、そして看護学が15.6%となっている。

これらの結果を基に、今後は大学院開設に向けて、さらに図書整備を実施する予定である。

本学図書館分類別蔵書数

2004年度末現在

分類	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	看護学
冊数	1,055	2,351	715	7,647	14,536	10,018
構成比%	2.5	5.6	1.7	18.3	34.8	24.0
洋書冊数	87	439	64	1,132	2,628	1,566
洋書比率%	8.2	18.7	9.0	14.8	18.1	15.6
分類	工学	産業	芸術	言語	文学	合計
冊数	746	168	864	1,982	1,741	41,823
構成比%	1.8	0.4	2.1	4.7	4.2	100.0
洋書冊数	37	16	101	826	126	7,022
洋書比率%	5.0	9.5	11.7	41.7	7.2	16.8

2004 年度利用統計

	2003年度	2004年度	増 減
開館日数	272 日	268 日	-4 日
入館者数	47,010 人	42,666 人	-4,344 人
貸出者数	6,328 人	8,236 人	1,908 人
貸出総冊数	13,146 冊	17,495 冊	4,349 冊
学外利用者数	1,434 人	1,540 人	106 人
学外者貸出総冊数	1,212 冊	1,642 冊	430 冊
文献複写依頼数	699 件	606 件	-93 件

入館者数は 42,666 人であり、前年度と比較して 4,344 人減少しました。

貸出者数は 8,236 人と 1,908 人増加しました。入館者数に占める貸出者数の割合をみると約 19%であり、前年度より 6 ポイント上昇しました。

貸出総冊数は 17,495 冊であり、4,349 冊の増加しました。貸出者 1 人当たりの貸出冊数は 2.1 冊と前年度 2.0 冊とほぼ

同じでした。

学外者の利用状況についてみると、利用者数 1,540 人と 106 人の増加、貸出総冊数 1,642 冊で 430 冊の増加でした。

入館者数自体は 2002 年度の 65,362 人をピークに年々減少傾向にあります。インターネットで蔵書検索や論文の閲覧等が可能となり、図書館へ向うことも少なくなるのかもしれませんが、ただ何気なく開架の論文雑誌、図書を手に取ることによって、新たな知的発見をすることがあります。蔵書数も増加しましたので、ぜひ図書館へお越しください。

2004 年度貸出ベスト 10

本学図書館で 1 年間のうち貸出回数が多い図書は何か。2004 年度の実績を以下に示しました。

順位	1冊あたりの貸出回数	書名	出版社	出版年
1位	12.0	小児 改訂版 1<看護観察のキーポイントシリーズ> (請求記号:N400-Ku97-1)	中央法規出版	2000/09
1位	12.0	イラスト小児の生活援助 病院・家庭におけるケアの徹底図解 子どもにかかわるすべての人に (請求記号:N440-Ki16)	文光堂	2001/12
3位	10.8	臨床検査 第5版<系統看護学講座 別巻6> (請求記号:N080-Ke28)	医学書院	2002/01
4位	10.5	健康障害をもつ小児の看護<新体系看護学小児看護学> (請求記号:N080-Sh69-29)	メヂカルフレンド社	2003/01
5位	10.2	母性看護学各論 第10版 母性看護学<系統看護学講座専門25 母性看護学2> (請求記号:N080-Ke28)	医学書院	2004/03
6位	9.5	母性看護技術<母子看護学母子看護技術1> (請求記号:N300-B66)	廣川書店	2002/04
7位	8.8	小児臨床看護各論 第10版<系統看護学講座専門23 小児看護学2> (請求記号:N080-Ke28)	医学書院	2003/03
8位	8.3	考える基礎看護技術 第2版 2看護技術の実際<基礎看護学> (請求記号:N210-Ts15-2)	廣川書店	2002/02
8位	8.3	入院児の遊びと看護 (請求記号:N412-N84)	医学書院	1993/07
8位	8.3	小児看護学 小児の主要症状とケア技術 (請求記号:N440-Q38-2)	医歯薬出版	2001/12
8位	8.3	母性看護学<母子看護学> (請求記号:N300-B66)	廣川書店	2002/03

複本が多い図書が上位を占める可能性がありますので、今回は 1 冊当りの貸出回数が多い図書を採用しました。看護大学の図書館ですから看護分野の図書が上位を占めることは予想できましたが、小児看護分野、母性看護分野の図書が多いことがわかりました。

表出はしませんが、上位 30 冊でみると、母性看護分野 11 冊、小児看護分野 10 冊、成人看護分野 3 冊、老年看護分野 2 冊、基礎看護分野 2 冊、その他看護関係 2 冊でした。

お世話になりました～異動・退職者からのメッセージ～

看護大学図書館での2年間を振り返って

2年前の春、新潟市にある県立図書館から看護大学へ赴任した。家を離れてはじめての上越、司書が20人の職場から1人、公共図書館から大学図書館などなど、あまりにも激変した環境に加え、図書館の業務マニュアルもほとんど整備されておらず、最初はただただ困惑するばかりであった。

しかし、この2年間、なるべく利用者本位の図書館になるように努力してきたつもりである。

未登録資料（機械で検索できなかった資料）を解消し、検索結果に資料の棚番号を入れるなど、資料はずいぶん探しやすく手にとりやすくなったのではないと思う。学生さんには教科書以外の本も読んでもらいたいと思い、何回かは特集も行ったが、ふだん手にとらない本と出会うきっかけになったのであれば幸いである。

看護大学図書館は学外者の利用も非常に多く、仕事のかたわら図書館に通ってこられる方々には頭が下がるばかりであった。しかし、看護研究

図書館勤務は初めてであり、医学・看護の分野に関して全くの無知であったため戸惑うことばかりでしたが、看護学生の手助けとなる場で、短い期間でも働くことができたことを嬉しく思い

新潟県立図書館司書 阿部昌子さんが盛んになっているにも関わらず、看護師が必要な文献が身近にないことが多く、またまったくと言っていいほど文献の探し方が指導されていないのがとても気になり、文献検索講習会を学外者にも開放した。今後も積極的に地域に貢献する図書館であってほしいと願っている。

人事異動の発表は春休み中で、学生のみなさんにごあいさつできなかつたのが心残りだったので、この場を借りてごあいさつとさせていただきます。看護大の学生さんは、みな勉強熱心で感心するばかりであった。今後、卒業論文などでますます図書館を利用する機会が増えると思う。図書館をフルに活用していただき、大学で覚えたものの調べ方などを社会に出てからも活かしてほしい。

最後に、周囲の職員の方々、他大学や病院図書室の方々には本当にずいぶんと助けていただいた。ありがとうございました。

非常勤職員 古川紀子さん

ます。看護大学および図書館のますますのご発展を心より祈っています。

また、学生の方々が、多くの場で活躍されることを願っています。

今年度からの新しい図書委員メンバーおよび図書館職員をご紹介します

◎委員長 野地有子教授

新メンバー5名で、新しい課題にチャレンジしています。基本は、使いやすい図書館です。

☆委員 平澤則子講師

内外を問わず、利用者の皆様の意見を大切にしてい、「使い勝手の良い図書館」をめざしていきたいと思ひます。

☆委員 大友康博講師

利用者とともに、利用すると効用がある図書環境整備に努めたいと思ひます。皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

●非常勤職員 加藤由紀

図書館は初めての職場です。明るく、活気ある大学の中で仕事が出来てうれしく思っています。一生懸命がんばりますので、よろしくお願ひします。

○副委員長 橋本明浩助教授

知識と情報の源泉が大学図書館だと思ひています。図書館と図書館ネットワークを上手に使い、冷静に科学する者の立場を貫いて、正しい知識を得たいと心がけています。

☆委員 大友優子講師

沢山の方々が図書館を有意義に活用できるように、微力ながら力をつくしていきたいと思ひます。

●司書 吉原貴子

大学から県立図書館へ異動したのはたった2年前でしたが、戻ってきてみて「こんなに忙しいものだったか」と懐かしさと同時に厳しさを感じている今日この頃です。蔵書が4万冊を超え、やっとここまで来たかと思ひています。司書不足でご迷惑をおかけしていますがご協力よろしくお願ひします。

寄贈者名簿<2005/1~5月受入分>(五十音順 敬称略)

下記のみなさまよりご寄贈いただきました。大変ありがとうございました。

<あ行>

愛知県立大学
朝倉京子
阿部昌子 (3月異動職員)
医歯薬出版
大阪大学医学部保健学科
大阪府立看護大学看護学部
奥寺敬 (富山医科薬科大学教授)

<か行>

京都大学大学文書館
京都府立大学
公立大学協会
公立はこだて未来大学
国際連合大学
国立国語研究所
国立国会図書館
こども未来財団

<さ行>

埼玉県立大学
坂本ちか子 (著者)
札幌医科大学保健医療学部
自治医科大学看護学部
上越教育大学
上越市企画部企画課
上越市教育委員会
上越市健康づくり推進課
上越市史編さん室
上越地域活性化機構
聖マリア病院
仙台白百合女子大学
総務省統計研修所

<た行>

大学コンソーシアム京都
大学入試センター
多摩美術大学
帝京科学大学大学院
東海大学
東海大学医学部附属病院地域医療科

東京女子医科大学
東京理科大学
東北大学百年史編纂室
戸田幸子 (平成16年度退職教員)

<な行>

長岡市
長崎大学医学部保健学科
中島紀恵子
長野大学
名古屋大学医学部保健学科
新潟県
新潟県糸魚川地域振興局健康福祉部
新潟県柏崎地域振興局健康福祉部
新潟県環境生活部
新潟県環境生活部女性政策課
新潟県企画調査部
新潟県教育委員会
新潟県教育庁
新潟県教育庁保健体育課
新潟県産業労働部
新潟県産業労働部産業政策課
新潟県三条健康福祉環境事務所
新潟県人事課
新潟県青少年問題協議会
新潟県総合政策部
新潟県総合政策部国際交流課
新潟県総合政策部統計課
新潟県総務部
新潟県十日町地域振興局健康福祉部
新潟県万代島美術館
新潟県病院局
新潟県福祉保健部
新潟県福祉保健部医薬国保課
新潟県福祉保健部看護人材係
新潟県福祉保健部福祉保健課
新潟県弁護士会
新潟県巻健康福祉事務所

新潟県六日町地域振興局
健康福祉環境部
新潟県村上地域振興局健康福祉部
新潟県立生涯学習推進センター
新潟県立図書館
新潟県立文書館
新潟県福祉保健部
新潟国際情報大学
新潟青陵大学
日本看護協会
日本看護系大学協議会
日本障害者高等教育支援センター
日本生命財団
日本電気協会新聞部
日本図書館協会
日本ユネスコ協会連盟

<は行>

橋本明浩
東日本学園
ふくおか地域社会人
キャリアアップ推進委員会
藤田保健衛生大学
北海道医療大学

<ま行>

丸善
宮崎公立大学
民主教育協会
メディア教育開発センター
文部科学省
文部科学省高等教育局
文部科学省高等教育局医学教育課

<や行>

やずや
柳沢美枝子 (一般利用者)
横浜市立大学医学情報センター
横浜市立大学看護短期大学部
吉山直樹
読売新聞社

新規受入寄贈雑誌・紀要

<雑誌>

Health & place
JICA Frontier
Journal of child and adolescent
psychiatric nursing
外来小児科
クリニカルプラクティス
子どもの健康科学
日本がん看護学会誌
日本救急医学会東海地方会誌
日本小児看護学会誌
日本新生児看護学会誌

<紀要>

九州大学研究紹介
大学評価研究/大学基準協会
新潟県職員保健師会研究集録集
日本赤十字九州国際看護大学
intramural research report

図書館だより 第17号 (2005年6月20日発行)

編集:新潟県立看護大学図書委員会

発行:新潟県立看護大学図書館

〒943-0147 上越市新南町240番地

TEL: 025(526)1169

e-mail: tosyono@niigata-cn.ac.jp URL: http://lib.niigata-cn.ac.jp/